

6. 教員養成における教育の質の向上に係る取り組みについて

(1) 教職課程センターの開設

本学は、教職課程の質の向上と運営の充実化を図るため、教職課程センターを設置しています。教職課程センターは、次の2点を目的に活動を行っています。

- ①教職課程及び教員養成に関わる業務の改善・充実
- ②新規教員採用候補者選考試験受験者への指導・助言の充実と、教職課程履修者のキャリア支援

(2) 教育職員免許状取得希望者への履修指導の内容及び方法

本学は工学部、看護学部ともに教職課程を設置しており、両学部の学生便覧では教職課程のカリキュラムの詳細が記載されています。教育職員免許状取得を目指す学生に対しては、学期当初のガイダンス期間中に「教職課程ガイダンス」を行い、1年次後期から教職課程への登録を受け付けています。

教職課程に登録した学生に対する履修指導は、前述の教職課程ガイダンスでの履修モデルの説明において、また、各学年のクラス担任が個別面談形式で履修科目の指導を行う「個別履修プログラム」において行われる、教職課程を履修した学生に対して個別に用意された「教職履修カルテ」に基づき、教職課程センター教員が個別面談を行い、履修登録科目の漏れや学修深度に合わせて段階的な科目履修がなされるよう、適切に指導しています。

「教職履修カルテ」は、令和6年度入学生から電子データによる保存に変更し、学生と教職課程センター教員の間で学期ごとに定期的なやりとりが行われます。学生は履修科目ごとの学修成果を記入し、教員はその内容を参考に次の履修指導を行います。学生にとっては、教職履修カルテに学修成果を直接記入することで自己の学修を振り返ることができ、教職ポートフォリオとしても活用されています。

本学では、教職課程の登録者が各学年約1割程度であり、教員も学生個別の状況把握に努めており、ガイダンス等を除き原則として指導は個別に行っています。

(3) 教職を志望する学生に対する指導の内容、方法及び体制

教職を志望する学生に対しては、履修指導のほか職業としての教職を理解させることを目的に、説明会を行っています。教育委員会採用担当からの説明会、卒業生で実際に教職に就いているOB・OG、公立高校の教員経験者による体験談など、現在の学校教員に求められている職務の専門性や教職への使命感を理解させ、教職科目の履修に向けての積極性と強い自覚を求めています。

また、新規教員採用候補者選考試験対策も本学は重視しています。公立学校の教員を希望する場合は、都道府県等の実施する新規教員採用候補者選考試験に合格しなければなりません。教員採用選考一次試験における筆記試験科目としては、一般教養、教職専門及び専門科目が実施されます。一次試験に合格すると二次試験では、面接（個人、集団）試験、集団討論、小論文作文試験、模擬授業、適性検査等が実施されます。近年では、大学3年生で教員採用選考一次試験の一部科目が受験できるようになりました。また、令和9年度の新規教員採用選考一次試験からは、共同実施になることも考慮しての準備や対策も必要となります。そこで、2年生の後期から、授業の無い時間帯に自主的な学習ができるよう教職課程センターを開放し、試験等に向けて支援することを早期からできるようにするなどの体制を整えました。教職課程センター教員は、学生の教職履修カルテも参考に学修成果を確認したうえで、新規教員採用候補者選考試験受験に向けて苦手とされる科目等についての個別指導も行っています。

(4) 「教職課程自己点検・評価報告書」の提出

本学教職課程センターは、教職課程の現状を踏まえて課題を検証し、課題となっている事項についての改善に向けて方向性を示すことから、隔年で「教職課程自己点検・評価報告書」の提出を行っています。